

茅 風



— Breeze from the field of thatch-grass —

2019年5月28日

森林塾青水

事務局便り

茅風通信57号



上ノ原の野焼き 林親男撮影

■ 1月～5月中旬の活動報告(事務局).....	1
■ 第18回定期総会開催報告.....	2
◆新年度重点施策	
◆2019年度の主な活動計画・日程	
◆総会セミナー報告	
■ 2018 定例活動⑧.....	4
「キャンドルナイト・雪原トレッキング」	
◆開催報告(草野洋)	
◇雪原トレッキング同行記(稲貴夫)	
■ 流域連携と流域コモンズ活動報告.....	5
◇小貝川と菅生沼の野焼き	
■ 2019 定例活動①.....	6
ふるさと文化財の森 認定記念	
「上ノ原・茅場の野焼き」	
◇開催報告(草野洋)	
◇参加者レポート(近藤清子)	
◇野焼き写真アルバム(林親男)	
■ 藤原現地事務所報告(北山 郁人).....	8
「みなかみ町消防団第四分団の紹介」	
■ リレー投稿・第二回.....	9
「私の仕事」(浅川 潔)	
■ 野守のつぶやき(清水 英毅).....	10

【1月～2月】

●1月19日、20日 小貝川、菅生沼で行われた野焼きに流域連携としてそれぞれ9名、10名参加。

【3月】

●9日、11日 定例プログラム「地域イベントキャンドルナイト参加 雪原カンジキトレッキング」実施 9名(うち児童2)参加。

●11日 文化庁にて、上ノ原が「ふるさと文化財の森」に認定される。歴史的建造物の資材となっている茅、檜、漆、イ草等の原材料を供給できる産地を認定し、文化財保存修理資材の安定的な供給を目指すもの。それに見合う支援などが期待される。

【4月】

●6日 第18回定期総会およびセミナー実施。会員数58名に対し、参加24名、委任状20名。他にみなかみ町エコパーク推進課小林課長補佐、森林文化協会斎藤氏がオブザーバー参加。総会修了後に行われる恒例のセミナーでは、上ノ原に来て15年の節目に当たり、森林塾青水の過去、現在、将来について清水顧問・草野塾長・北山塾頭がそれぞれ報告。

●15周年の記念として、「飲水思源」と染め抜いた記念手ぬぐいを総会の場で配布(欠席者は郵送)、また、野焼き前の27日には地元でお世話になった人々に感謝の言葉をそえて手渡し配布した。

●28日、29日 定例プログラム「春の風物詩・上ノ原茅場の野焼き」実施。岐阜大学、自然保護協会、日本茅草文化協会、茨城県自然博物館、森林総合研究所、ネパールからのゲストなど、各方面からの多彩なメンバーを含む48人が参集。

加えて、イオン環境財団、エコパーク取材の毎日新聞記者、共愛学園前橋国際大学の大学生、小学生グループ「のらえもん」なども顔を見せた。

町役場や消防団からは場所設営、参加者の送迎、安全点検など全面的な協力をいただいたほか、地元有志からの差し入れなども嬉しかった。

これらのお陰もあり、また、一部メンバーが前日からはいるなど、防火帯づくりに注力したかいもあり、2.4haを安全にかつ完全に燃焼。

【5月】

●18日 麗澤中学校樹木観察会実施。青水会員をはじめ関係者15名がインストラクターとして、1年生153名8グループを体験指導。

(以上)

■第18回「定期総会」を開催

事業計画及び新年度の体制と方針を承認

森林塾青水の第18回定期総会を4月6日(土)午後一時より、東京都渋谷区の環境パートナーシッププラザのセミナースペースにおいて、会員及び関係者27名の参加のもとに開催しました。議事に先立ち、草野塾長、続いてみなかみ町エコパーク推進課の小林勲さん、森林文化協会の斎藤義浩さんが挨拶。その後、清水顧問を議長に選出し、事業報告では昨年度の活動を振り返るとともに、新年度の事業計画・収支予算案、役員の選任等について審議。それぞれ原案の通り承認されました。



挨拶する草野塾長

森林塾青水は、「飲水思源」「人と自然のほどよい関係」「継続はチカラそしてタカラを創る」の基本理念のもと、「地元のチカラに都市住民のチカラを加えて、自然の恵みを持続的に利用する仕組み」の構築と維持に取り組み、上ノ原で活動を始めてから15年が経過しました。今年度は、活動の地元主導体制への移行を図りながら、みなかみと藤原の地域関係人口として深いつながりを持ちながら、特に下記の点に重点をおいて取り組んでゆく予定です。

- ユネスコエコパーク、ふるさと文化財の森指定に沿って、都市住民、地元住民、行政との協力体制を再構築、現地リーダーたちをバックアップし、現地主導体制への橋渡しを図る。
- 茅刈数増産対策。半減した茅刈衆の穴を埋める施策を継続していきます。
- 下流圏部会の活動を試行、藤原に軸足を残しながらも下流圏会員向けの、親睦的な楽しい活動を目指す。

また役員選任では、長年、青水の会計を担当してきた林部良治会員が幹事を退任。今年度から青水の会計は松澤事務局長補佐が担当することとなりました。林部会員からは会計収支の視点よりユニークな退任の挨拶がありました。新年度の役員構成と事業計画は次の通りですので、引き続き皆さまのご理解とご支援をお願い致します。

◆今年度役員構成◆

～塾長・塾頭・幹事・顧問・相談役等紹介します～

塾長

草野 洋 全般統轄 事務局長兼務(企画・予算統括、総会、幹事会)、現地移行準備協議、下流圏プログラム統轄

塾頭

北山 郁人 全般統轄補佐・プログラム企画・みなかみ事務所長(地元・みなかみ町役場ならびに支援企業との連携窓口)、現地移行準備協議、地元活動活性化(麗澤FWなど)、古民家・倉庫・機器管理

幹事

稲 貴夫 広報(「茅風」編集長)、東京楽習会、総会/セミナー 会計監査兼務

岡田伊佐子 麗澤中「樹木観察会/FW」、自然ふれあい学習、東京楽習会、総会/セミナー

尾島キヨ子 麗澤中「樹木観察会/FW」、下流圏プログラム補佐、茅刈り合宿

西村 大志 WEB管理(H/P・ブログメンテなど)、助成事業、広域連携補佐(草原再生ネット、草原サミット)、麗澤窓口、樹木観察

増井 太樹 広域連携(草原再生ネットワーク)

松澤 英喜 事務局長補佐(予算管理、会員管理、総会、幹事会ほか)、会計・出納、定例活動関連事務、助成事業補佐、WEB管理補佐、現地移行準備協議

吉野 一幸 地元代表(地元の活動参画促進、NPO奥利根ネットワーク、地域貢献プログラムほか)

※備考 現地移行準備協議会は幹事全員で対応

顧問

安楽勝彦 笹岡達男 滑志田隆 清水英毅
高野史郎

オブザーバー/相談役

小林 勲 行政/みなかみ町役場窓口(エコ・パーク推進課)

川端 英雄 アドバイザー

林 親男 地元関係相談役(藤原案内人クラブ)

◆2019 年度の主な活動計画・日程について◆

現在の予定です。定例活動や各種行事の案内は、開催日の一月前を目途にホームページに掲載します。

月	主な活動予定(定例活動・楽習会・流域連携等)
4	総会・セミナー/6(土) 定例活動①野焼き・山の口開き/28(日)・29(祝)
5	麗澤中学校樹木観察会/18(土)※下見 11(土)
6	定例活動②ミズナラ林伐採・歩道整備、ススキ育成補助作業/1(土)・2(日) 楽習会①下流圏会員親睦プログラム、久喜市・松伏町・秩父訪問/15(土)・16(日)
7	定例活動③防火帯整備・自然環境モニタリング調査/13(土)・14(日)
8	地域協議会
9	定例活動④ミズナラ林伐採・歩道整備/7(土)・8(日) 楽習会②流域連携活動、日光茅ボッチの会訪問/28(土)・29(日)
10	定例活動⑤茅刈り/19(土)・20(日) 茅刈り合宿(古民家合宿プラン)/17(木)・18(金)・21(月)・22(火) 麗澤中学校奥利根水源の森林フィールドワーク/30(水) 地元茅刈り衆による茅刈り/21~31
11	定例活動⑥茅出し・山の口終い/16(土)・17(日)
12	楽習会③流域連携活動、茅葺現場見学/場所・期日未定
1	楽習会④流域連携活動、小貝川・菅生沼の野焼き/25(土)・26(日)
3	定例活動⑦キャンドルナイト・雪原トレッキング/7(土)・8(日)

※上記の定例活動時などに合せて、車座講座・直売所訪問・外来種駆除等を実施する
※幹事会は毎月第3火曜日に開催予定
※現地での地域協議会は、8月の他に年明けにも開催予定

**各種活動への皆様のご参加、
お待ちしております！**

■総会セミナー

上ノ原の保全と活用—過去・現在・今後

清水顧問&草野塾長&北山塾頭

総会終了後、セミナーが開催されました。上ノ原で活動を始めて15年。活動の重点を地元に移行するとともに、「飲水思源」の原点を忘れることなく、下流圏での活動を展開してゆくというこれからの課題を全体で共有していくことが目的です。

そこで今年は、「上ノ原、里山の保全と活用について、過去・現在・今後」をテーマとして、元塾長の清水顧問、草野塾長、そして地元の活動の核となってきた北山塾頭より、それぞれこれまでの活動を振り返りつつ、将来への展望を語っていただきました。清水顧問からは、青水設立の前史も含めて、様々な形で関わってこられた方々のエピソードも交えてお話しいただきました(写真・下)。また草野塾長か



らは茅場の維持及び再生のためのハード、ソフトにわたる様々な取り組み、及び北山塾頭からは地元藤原地区の現況やNPO法人奥利根源流ネットワークの活動なども交えながら将来展望も含めてお話しいただきました。

続いて、みなかみ町エコパーク推進課の小林課長補佐より、「エコパーク」および「ふるさと文化財の森」についての解説をいただき、特に後者については、今後一層青水との連携を深めながら、上ノ原を地元及び文化財の保護のために生かしてゆきたいとの話をいただきました。

いくつかの質疑応答に続いて、最後に笹岡顧問より纏めの挨拶があり(写真・下)、節目の15年にあ

たってのセミナーは終了となりました。これからの活動に生かされることを願ってやみません。



2018 定例活動⑧

「キャンドルナイト・雪原トレッキング」

報告 草野 洋

2018 年度の最後のプログラム、キャンドルナイトと雪原トレッキングは、3 月 9 日 10 日に 8 名の参加者で行った。



初日は、会場であるサンバード藤原スキー場で藤原雪まつりのお手伝い、雪像やかまくらなどを作る作業である。青水は「そりの滑り台」を受け持って 2 時間ほどで完成。そのあとはキャンドルの設置、点灯を行って宿に帰り夕食を済ませて再び会場へ。

藤原雪祭りは夜の祭りである。豪雪地を逆さにとり、スキー場に訪れるお客様と

ともに楽しむ。ファイヤーパフォーマンス、松明スキー滑降、ファイアーバルーン、プロジェクションマッピング、花火、おもてなし、地元名産品などの夜見世も出て賑やか。かまくらの中ではコーヒーショップが良い香りを漂わせていた。締めは華麗な花火で。余韻を残して宿に帰る。



2 日目は、大幽洞までの雪原トレッキング、今年は雪が少なく、堅いのでカンジキ不要、参加者には小学生もいたが、3 時間ほどで無事帰還。

上ノ原はやはり積雪は少なめ、この分では今年も雪のない野焼になりそうだ。(実際には 4 月に降雪)

■雪原トレッキング同行記

稲 貴夫

朝八時に宿を出て大幽洞窟までのスノートレッキングに出発。北山塾頭の関係者や子供も含め総勢 21 名。



天気は今日も快晴。積雪は 150 センチ位で程よい固さ。かんじきの代わりに軽アイゼンを着けて出発する。

最後の登りも心



配した凍結はなく大幽洞窟へ。最近の天候の影響か、氷筈はいつもより小さい。地元の広告会社で、青水の協賛団体でもある東洋プロセスさんが後から追いついてきて、観光案内のための写真撮影をはじめた。我々一行はモデルになった気分。

帰りは尾根を一つ越えた隣の沢沿いを北山さんに続いて進む。こちらのコースは雪の上を滑って降りることができる場所もあり。子供たちは最初は怖がっていたが慣れると熱中し、また駆け上がって滑り降りる。大人がやっても楽しいが、スピードの出過ぎに注意しなければならない。

ちょうど昼頃には朝出発した上ノ原の入口に帰着。車で並木山荘に戻ってカレーライスの昼食を美味しくいただいた。



小貝川・菅生沼の野焼に参加

—恒例の流域連携の取り組み—

報告 稲 貴夫

1 月 26 日に開催された茨城県南部を流れる小貝川河川敷での野焼に、今年も流域連携活動の一環として参加しました。

青水からの参加者 9 名は関東鉄道常総線の水海道駅で待ち合せ、集合場所である小貝川河川敷に歩いて移動しました。全体の参加者は合計約 80 人。開会のセレモニーと作業内容の説明が終わると、早速防火帯の整備作業に取り掛かりました。

昨晚の予報では雪や強風が心配されていましたが、晴天で風もさほど強くはなく、野焼きのコンディションは最良。最初に火入れした上流側のオギ原は勢いよく燃え上がり(写真・右)、続くニケ





上 二カ所目

下 最後の三カ所目

所も順調に予定通り進みました。

野焼きを主催する「自然友の会」代表的場さんによれば、小貝川のこの地域は狭い範囲に多数の絶滅危惧種が生息していて非常に貴重であるが、条例などによる法的な保全の網がかけられていない。その中で、野焼きなどの保全活動に取り組む民間の地域団体も高齢化が進んでいるため、この取り組みを次の世代

への継承してゆくことが大きな課題になってきているとのことでした。自然環境の保全、継承は、地域社会そのものの継承とダイレクトに結びついていることを実感しました。

翌1月27日は、菅生沼の野焼き。青水からは10名が参加し、守谷駅に集合してから車に分乗して集合場所の菅生沼「ふれあい広場」に移動しました。この日の参加者は、地元の菅生沼を考える会や小学校、高校の児童・生徒の他、遠方からも含めて約三百名の大所帯。

9時から茨城県自然博物館の小幡さんの進行で開会式。はじめに博物館の横山館長が挨拶。続いて地元常総市の神達市長他、県議、市議等の挨拶の後、小幡さんから菅生沼と野焼きについて説明がありました。

菅生沼にはタチスミレ、トネハナヤスリ、ハナムグラ、エキサイゼリの4種の絶滅危惧が生育していますが、最近では外来種のオオブタクサやセイタカアワダチソウが増えてきているとのこと。

また、今年も菅生沼の観察会を博物館主催で5月19日に、地元の菅生沼を考える会主催で翌週の26日に開催されますが、菅生沼が常総市の天然記念物に指定されたこともあり、見に来る方場合は個別ではなくどちらかに参加してほしいとのことでした。

開会式が終わってから十時半まで、防火帯の整備作業に取り掛かり、青水のメ



防火帯整備作業



十字に切った仮設防火帯

ンバーもレーキなどを使って防火帯の枯れ草を掻き寄せる作業に汗を流しました。

風が出てくる心配があったので、作業を終えると直ちに十字形の仮設防火帯で四ヶ所に区分けしたヨシ原を順番に火入れしました。風下から火入れするので、最初はチョロチョロですが、半分くらい燃え、安全になったところを見計らって風上から火を入れると、空高く炎を燃え上がらせながら瞬く間にヨシ原を焰が舐めていきます。

野焼きがすべて終了してから残った参加者で集合写真を撮りましたが、その頃には大分風もでてきました。野焼きを安全に行うには、適切な状況判断が大切だと痛感しました。



2019 定例活動①「茅場の野焼き」

—充実した野焼きで「平成」を締めくくり—

報告 草野 洋

2019年3月16日に上の原の茅場が文化庁の「ふるさと文化財の森」に認定された。これは、全国の文化財を修復するために必要な資材を安定的に供給するための制度で、木材や檜皮、茅、漆などの産地全国76カ所が設定されており、上ノ原を含む4カ所が新たに設定されている

新たなステータスを得た上ノ原で「令和」を目前にした4月29日、「平成」最後の野焼きが無事に終了した。

藤原は4月3日に4月としては記録的な53cmの積雪があり、10日前後にも低温と降雪により上ノ原の雪解けは進まなかった。そこで固まった雪の表面を重機でかく乱したが、その後は気温が上がり雪解けは急速に進んだ。

10連休の真っ最中の4月27日、前日入りして、今年の野焼箇所Bブロック（町道と林道に囲まれた区画）や常設防火帯を見回ると、残雪は思ったより少なく野焼面は十分に確保できるが、地面やススキはかなり湿っている。雪によるススキの倒伏状態もいつもより激しいようだ。それでも28日の好天の

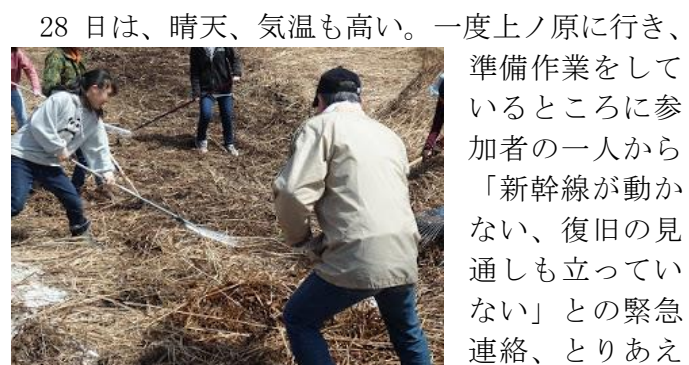


1年の安全と豊作を祈る山の口開け



雪舞う中の防火帯刈り

中、17時近くに誰かの「まだやるの」の声がかかるころに仮設防火帯はほぼ完成した。



可燃物を掻寄せ



灌木を除去



遊ぼう(棒)パンでもぐもぐタイム

予報に乾燥が進むと判断して、仮設防火帯を縦に2本、横に1本作り6小区画に区分することにして、刈払機で地面をこするようにして刈り、可燃物を焼失面に掻き込み地面を露出させる作業にとりかかった。ほどなく雪が降りはじめ一時吹雪模様でうっすらと積雪する

かき込みとウツギなど除伐、ついでに遊ぼう(棒)パン用の棒の採取である。15時には作業もおわり、藤岡さんが午前中に仕込んだパン生地を棒に巻き付けて焼く遊ぼうパンと、岡田さんの野点を楽しんだ。



今回の野焼きのゲストは多彩な顔触れと多くの初参加者で賑わった。そのなかの一人が塾メンバーの尾島さんがネパールですっかり気に入って招へいした好青年、トレッキングガイドのSubushさん。彼は、2週間の滞在中、桜の季節の会津やみなかみで



上:会津で桜を楽しんだスバスさん

下:野焼きでは太鼓を披露

アウトドアを体験したあと、前日入りで野焼きの作業を手伝ってもらった。勤勉な性格で力持ちで実によく働いてくれた。参加者も好感を持ってく

れたようだ。

国立環境研究所の西廣先生は二人の韓国からの留学生、茨城自然博物館の小幡さんは、同僚と森林総合研究所の研究者を同行、岐阜大の津田先生は大学院学生を同行、日本自然保護協会の朱宮さんは家族を同行、そのほか、昆虫と植物の相関関係を研究テーマにする大学院生もいてアカデミック色が強く出ていた。

初参加者も多く、中でも子供たちと、親と、夫婦で、家族一緒に参加したグループがほほえましい。一度参加した人がお友達を同行するケースも増えたのはとてもうれしい。北山さんのPRも効いて地元藤原の方の見学者も多くあった。

今回は、毎日新聞の記者の方も取材に来ていただいて5月4日の朝刊の特集に掲載された。

その夜、宿泊参加者44名に、みなかみ役場高田課長ほか2人、共愛学園前橋国際大学の学生サークル藤原集落応援隊6人も加わった大人数で行われた交流会は、みなかみユネスコエコパーク、ふるさと文化財の森をメインテーマに大いに盛り上がった。

さて、29日、好天に恵まれ、ネパールの祈りの旗「タルチョ」がまるで黄色いハンカチを模したようにはためく中の野焼本番である。

「タルチョ(風馬旗)」とはチベットの五色の祈禱旗のことで、寺院や橋などによく飾られている。



タルチョ(馬風旗)がたなびき安全を祈る

青・白・赤・緑・黄の順に並んでいてそれぞれが天・風・火・水・地を表し、木版印刷により願い事や六字大明呪と呼ばれる仏教の呪文や、虎、麒麟、鳳凰、龍などが描かれていて、経文が書かれている場合は風にはためく度に読経したことになる。今回は、尾島さんにネパールで直接購入してもらった。



作業前のミーティング

地面やススキの湿り気は相変わらずだが幸いに気温も上昇気味、4者協議のGoサインも発せられ、着火隊、ジェットシュター隊、レーキ延焼防止隊が揃って、9時20分ごろ、カラマツ林に隣接して面積が一番広い小区画①から着火、林道わき上部を带状に焼き、Aブロックへの延焼を防ぎ、常設防火帯、仮設防火帯に沿って同じく带状に焼き、区画の斜面下真ん中あたりに火を着けて一気に燃やしていくつもりだったが、やはり湿り気が多く、火力が弱いので薄い落葉は焼けるがススキの稈(かん)が焼けずに残ってしまう、いつもの舞い上がるような炎も少ない。安全だが迫力がない、それでもススキの稈がはじける「パチパチ」という音が聞こ



带状に焼失面を作る



湿っていて炎が上がらない

えているので野焼の効果は十分にあるだろう。

②～⑥と縞焼き法で次々と焼いていき縞焼き法を実践確認する。出動してくれた消防団の放水の出番もなく11時には鎮火を確認して平成最後の野焼きも無事に終わった。

この日は、支援をいただいているイオン環境財団の方が視察

され、塾の活動と人脈を評価してもらうとともに藤原地域に触れあっていただいた。

今年野焼きを表現すると「メディアム」であったものの、比較的広い面積(推定2.4ha)の野焼きを仮設防火帯と小区画縞焼き法の効果

を实践で確認できたこと。多様な参加者があって人のチカラが塾の運営のチカラとなることを確信できたことである。



末黒野出現

10連休の真っ最中にもかかわらず全面的な協力をいただいたみなかみ町役場、出動いただいた藤原消防団、大勢で押し寄せ、面倒なことをお願いした吉野屋さんに心から感謝いたします。



イオン環境財団の方々

■参加者感想文

「野焼き」

近藤清子・ねね・もも

「森林塾青水」の野焼きの体験をさせて戴きました。4月28日(日)藤原地区に着いて驚いたのは、まだ雪があるという事でした。私達も新潟県南魚沼市という豪雪地域で生活をしていますが、もう雪も融け、山に残る程ですが、道路沿いに積雪があるではありませんか。しかも晴れているのに寒い。風が吹く中お昼ご飯を食べた後、前塾長の清水さんとお会いし、共愛学園の学生さんと一緒に辺りを散策し、「草木塔」「再生炭がま」等の案内をして頂き、途中足を止めて周りを見ると空の青と谷川連峰に積もる雪の白との色のコントラストがとてもきれいでした。

作業が始まり、防火帯作りをしている際、レーキに枝が絡まり思う様に進まず、普段使わない筋肉が悲鳴を上げました。また、高校生の娘と参加させて頂いたのですが、親子で同じ作業をすることは久しぶりで、嬉しかったです。

夕飯時には、体を酷使したせいかもしれない小食の娘がおかわりをしているのを見て、改めて今回の防火帯作りが大変な作業だったか確認できました。夕飯が終わり、夜の会合では草野塾長をはじめとした各分野の方々とお話しをさせてもらい、勉強させて頂きました。中でも野焼きは日本だけではなく、各方



面でも行われている、という事実には驚きでした。初日は、程良い疲れにいいお酒、新しい知識を得られた満足感、夜空に瞬く星を見て一日の眠りにつきました。

翌朝、晴れた空の中昨日作った防火帯近くから、着火の様子を見ていました。思ったよりも穏やかに進む炎、変わる風向きによっ

て、大量の煙を全身に浴び、せき込んだり、昨日の防火帯作りで使った筋肉の痛さ等々…。いろいろと体にくるものはありましたが、炎から作られる陽炎の景色はとても幻想的でした。何より昨日は茅で一面黄色だった山肌が、野焼きの後には黒色になったとわかったときは普段は中々目で分かることのできない達成感がいっぱいになりました。秋には今回、真っ黒になった山肌で力強く育っている黄色い茅を見るのが楽しみです。

「焼畑、野焼き」という言葉は知っていても、今回体験してみると、手作業でどんなに大変なのか実感できました。それでも今ある自然を守ろうとしている人がたくさんいるからこそ、この行事は長年続けられているのか、と思うことができるほどに充実した体験になりました。今回関わらせていただいた大勢の皆さん、お世話になりました。またどこかでご縁がありましたら、是非ともよろしく願います。

繰り返しになってしまいますが、最後に今回出会った沢山の皆さん、本当にお世話になりました。

藤原現地事務所報告

「みなかみ町消防団第四分団」 北山 郁人



毎年の野焼きに藤原地区の消防団にも警戒のため、みなかみ町に要請し出動してもらっています。藤原地区は、みなかみ町消防団の第四分団が担当していますが、今年度は北山が

第四分団の分団長としてお世話になっております。

そもそも、消防団とは常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行う、非常勤特別職の地方公務員という位置づけです。

通常の消防団は、本職の消防署の後方支援を行うのが一般的ですが、藤原の第四分団の場合は違います。藤原地区では、火災が発生し通報があつてから消防署が到着するまでに20分から30分時間がかかります。そのため、消防署よりも

先に現場に到着し、初期消火を行

わなければなりません。そういった意味では、第四分団は他の消防団とは違いより地域を自分たちの手で守っているという実感と自負があると感じます。

5月13日にもサンバード付近の別荘地で建物が全焼する火災がありました。この地区は水利が少なく、20mの消防ホースを30本近く延長し遠くから水を運んできました。幸い死傷者はなく、他の建物等への延焼も食い止めることができました。若者が少なくなり、他の消防団に比べ圧倒的に平均年齢の高い第4分団ではありますが、これからも地域のために活動していければと思っております。

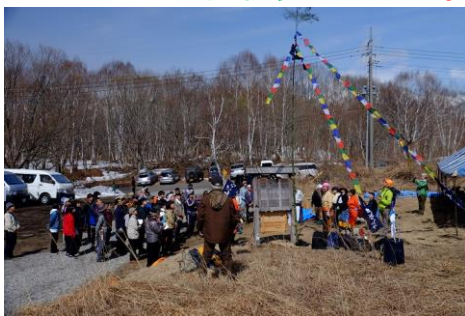


みなかみ町ポンプ操法大会(5月19日)に出場。指揮者：石垣将太郎、1番員：中島真人、2番員：吉野一幸、3番員：夏目啓一郎 入賞は逃したが、夏目さんが3番員の最優秀選手に選出される。



現場で放水する石垣団員

林親男さんの野焼き写真アルバム



私の仕事は一言で言いにくいのですが、一般的には設計コンサルタント業と思われます。多くは住宅地の景観まちづくりを専門としていますが、都市計画、都市設計、ランドスケープ、地区のルールづくり、まちを維持していくための住民組織のサポート、このようなまちづくりの教育・啓発として、市民や大学生、専門学生に教えることも行っています。このような仕事を行ってきた中で、森林塾青水の活動が役に立っていることをご紹介しますと思います。



佐倉そめい野住宅地

以前の郊外住宅地は、ゆとりのある敷地に住宅を建て、庭があり道路沿いに生垣などの垣根があり、主庭とテラスと住宅をつなぐ半戸外空間があり、屋外空間を楽しむ家が多かったです。庭には樹木や草花を植栽し、四季の移り変わりや緑の潤いを感じて生活していました。しかし、最近の郊外住宅は、交通利便が車により2台3台車の所有による道路沿いの駐車場化、樹木の剪定・消毒、落葉の清掃、草取りなど植栽の手入れをしたくない、外回りにお金をかけないなど、植栽があまりなく、駐車場の中に住宅がある家が多く見られます。

そのため、私に関わる分譲住宅地では、最低限の植栽を設けてもらうために、ガイドラインや景観協定を設けて、まちなみ樹木として、比較的目立つ場所にあるアイストップツリー、コーナーツリーなどの常緑高木を設け、各宅地の門周りには、家のシンボルとなるシンボルツリー、落葉高木を設けることが多いです。シンボルツリーは道路沿いに設けることにより、街路樹的な役割を持たせることもでき、落葉樹とすることで、四季の変化を感じさせます。あとは、宅地内に2本位中木を設けてもらうくらいです。最近の若い世代はマンション暮らしの方も多く、植栽のことを知らない方が多いです。ハウスメーカーの営業の方から聞いた話ですが、落葉の時期に葉が全部落ちてしまい、「枯れたから1年保証で交換してほしい」と言われたとか、「落葉の清掃が大変だから葉が落ちない常緑樹にしてほしい」など、いろいろあります。ま

めばえビレッジ



た、芝敷きの部分を人工芝に変更する家なども増えています。環境を重視する時代ですが、身近な手間がかかる緑はいらない、そんな時代ですが、管理を楽しんでもらえるといいのです。

最近「里山住宅地」という分譲住宅地が郊外住宅地で増えています。建物が平屋や木質系の建物程度で、屋外空間を楽しむ設えをしているくらいで、周囲に里山がある程度の住宅地です。

しかし、昨年つくば市で私が手掛けた「めばえビレッジ」は、隣地間でフェンスがなく、駐車場は芝目地の枕木敷で、里山の樹木を多く設けた雑木林に包まれて暮らす住宅地です。簡単に言うと敷地が狭い別荘地です。配置もなるべくずらすことで、家の中から隣地の緑も楽しめるそんな住宅です。街区の中央には共有の雑木林（落葉樹8割、常緑樹2割）を設けています。分譲地なので苗木から育てることはなく、ある程度の樹高のものを植えているので、更新時期は早いかもしれません。子供達は遊具がなくても自然と触れ合う遊びができて、大人も落ち葉拾いや草刈り、樹木の剪定や除伐などの作業を楽しみ、住民同士のコミュニケーションも高まり帰属意識も生まれます。



めばえビレッジ

浅川会員は青水の設立期から昨年三月まで、事務局長をつとめられてきました。この度はご寄稿ありがとうございました。次回は、昨年度まで会計を担当された林部会員の予定です。よろしくお願い致します。（編集子）

■野守のつばやき(16)

～ 草創期の思い出と令和時代の展望 ～

●青水塾の先祖達と縁結びの神二柱 4月6日

上ノ原・15周年記念「セミナー」で草創期の思い出を語ることになった。

塾の誕生は2000年9月、藤原上区のサンワみどり基金「水源の森」林内。立木の勉強をしたいという地元木工家仲間の熱意に基づき誕生(写真ノ)



その後、水上町建

設農林課(当時)の木村さんと木工家仲間の頭目・広川さん(当時:青水塾頭)がタッグを組んで町有遊休地の利用を熱心に勧めてきた。あれこれ注文付けて出会ったのが上ノ原だった。



2003年4月の借受契約を機に、以前より活動していた「水源の神々について語る会」と現代版「入会慣行」について考える会の仲間にも大合流して

いただいた。木工家仲間と二つの会の会員は塾の祖先であり、木村さん広川さんは縁結びの神！(写真ノ)

因みに、塾活動の基本理念「飲水思源」は「水源の神々について語る会」の精神から、活動目標＝利根川「流域コモンズ」の形成は現代版「入会慣行」を考える会での学び。そして、活動モットー「楽しみながら良い汗をかく」は多くの女性会員(シテイガール!)諸姉の意を汲んだつもりだった。

●15周年記念手拭いの配布

4月27日～28日

27日は松澤幹事、28日は北山塾頭の車に同乗して地元集落の手拭い配り。

「皆様方のご指導お力添えのお蔭様で、15年間無事ここまで参りました。手拭い一本、真に細やかですが会員一同の感謝の気持ちを『飲水思源』に込



めさせていただきました。今後とも、ご後見のほどよろしくお願い申し上げます」と頭を垂れて回った。全70戸、藤原集落全体のおよそ3割弱。実に多くの方々のお世話になってきたものだ。いずれも、上ノ原の入会という“井戸を掘って下さった”方々。上記、塾の大先達や縁結びの神さま同様、その大恩忘るべからず。写真(↑)は吉野屋さんのフロント。阿部典子さんは、これで早速お手製の帽子を作られて即、被っておられた。感激したがデジカメが電池切れ、撮影出来ず残念無念！

●十二神様に15年間の報告と感謝

4月28日

「山の口開け」儀式に先立ち、十二神様の前に独り額づいた。十二神の代表格は山上の神＝大山住神。上ノ原の代表は茅野姫神と原山住神の二神であろうか。謹んで、これまで15年間のご加護に感謝申し上げ、あわせて令和の時代の末永き安寧を祈願申し上げた。



●平成最後の野焼き、嬉しいこと沢山

28～29日

野守の感覚で、最も嬉しかったこと三つ…(順不同)



・ご家族連れが何と9組も。しかも、お子さま連れが多くフィールドで交じり合って仲良く戯れていたこと。これぞ、日本のふる里の原風景！



・今年も地元消防団の車が2台9名も。しかも、団長さんは我らが北山塾頭。今年、彼氏は塾では火付けの役回り。ご子息の桂月くんはジェットシューター担いで火消し役に！微笑ましい限り。

・木曾武子さんから、自家製小豆入りお赤飯の差し入れ。三段重ねの重箱入り。15周年祝いのお気持ちであつたろう。滋味抜群、皆で頬張りながら嬉し涙が！



野を焼いて 心の炎鎮めけり

青水

残念ながら、ここで紙数がつきた。令和の時代展望などは又の機会としたい。

令和元年立夏(青)

～編集後記～

『茅風通信』第57号をお届けします。

時代が平成から令和へと遷り代わりました。青水にとっても、上ノ原で活動をはじめてから15年の節目ですが、平成最後の上ノ原の野焼きには、実に多彩な方々が大勢参集しました。茅場は直前に降った雪の影響で多少湿っていたものの、全員が一致協力し、予定した区画を無事に焼くことができたとのこと。この人と自然との繋がりによる連携プレーを藤原から下流圏まで、流域全体に拡げてゆくことが青水の大きな目的でもあります。

さて、今年度は藤原・上ノ原を中心としながら、流域全体をフィールドとしてとらえ、新たな企画も試みていく予定です。大勢の皆様のご参加をお待ちしています。(稲)